

文理分け制度のより良い形を目指して

土浦第一高等学校 7 班
2 年 C 組 神社千裕 2 年 D 組 山本咲希
指導教諭 関谷隆志先生 豊島卓先生

【要旨】

土浦一高の特徴として、三年次から文系・理系に分かれることが挙げられる。二年次で文理に分かれる高校が多い中、自分たちの学校はなぜ三年次からであるのかに疑問を持ったと同時に、文理分け制度の必要性に疑問を抱いた。最も良い文理分け制度を追求し、現在の制度を見直し文系と理系の融合を進めるべきだと考えた。

Considering the best form of the selection system between humanities and engineering

Chihiro Kanja Saki Yamamoto

Supervisor: Takashi Sekiya Takashi Toyoshima

【Abstract】

One of the features of Tsuchiura First High School is that students are divided into humanities and engineering from the third year. In the second year of school, when we started to consider the choice of humanities and engineering, we wondered whether dividing students into humanities and engineering was the best system for today's high school students. In pursuing the best system of humanities and engineering, we propose that we should increase the number of schools that integrate them and that the current system should be abolished.

1 序論

1-1 動機

土浦一高の文理分けが他の高校とは異なり三年次からであることに疑問を抱いたことに加え、大学入試を目前にして文転する生徒の例や、近年大学が文理融合の学部を作る流れなどもあり、文理分け制度は本当に必要なのだろうかと考えた。そこで文系理系について詳しく調査し、より良い文理分け制度を提案したいと考えた。

1-2 仮説

STEAM 教育など近年求められているグローバルな人材を育成するためには幅広い知識を身につける必要があり、そのために学問の文系理系制度を廃止する必要があるのではないかと考えた。

2 調査方法

2-1 インターネットでの調査①

- ・文理分け制度の歴史
- ・文理分け制度のメリット、デメリット

2-2 フィールドワーク

宮城県宮城第一高等学校で、国際探究科と理数探究科について取材した。（2022年8月18日）

2-3 インターネットでの調査②

- ・海外の文理分け事情
- ・大学での学びの特徴

3 調査結果

3-1 インターネットでの調査①

【日本の大学入試における文理分けの実態】

日本の大学入試は一般入試、学校推薦型選抜、総合型入試の三つに分かれており、一般入試として 2021 年に始まった共通テストでは思考力、判断力、表現力が新たに問われる力として注目されている。2 次試験では高校時点で文系を選択した者は主に国語、英語、地歴科目を受験し、理系を選択した者は主に数学や理科を受験し、合否が決定する。よって高校在学時の文理選択が進学する大学や将来の職業を左右することが分かる。

【歴史、メリット・デメリット】

文理分けの制度は明治時代に急速に近代国家をつくるため始まった。文理分けのメリットは自分の将来に対するイメージを持ちやすくなる点、専門性が増す点、学校や職業を選択しやすくなる点だ。一方デメリットとしては高校生の段階で文系理系に分かれると進路選択が適切に行われない可能性がある点が挙げられる。

3-2 フィールドワーク



図 1 宮城第一高等学校

インタビューの結果、以下の二点が分かった。

①文系理系に分かれるメリット、デメリット

高校二年次で文系理系に分かれるメリットは、専門的な学びを行い大学入試対策を早い段階で行うことができる点、デメリットは三年次で文理分けを行う高校に比べて幅広い学びが行えない点である。

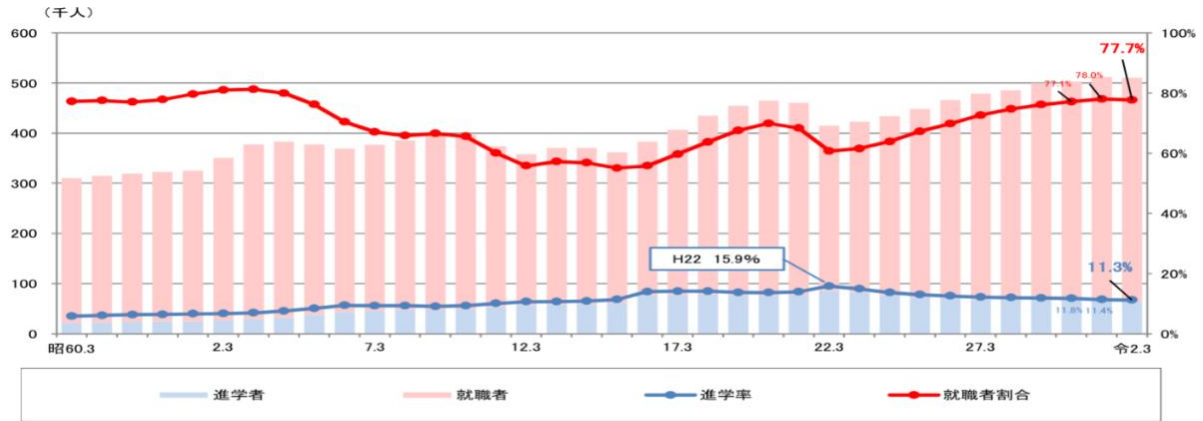
②宮城第一高校に設置されている国際探究科、理数探究科の活動

国際探究科と理数探究科では教育や分野を超えた問題の解決を図るため、探究活動や地域課題、グローバルな問題の研究や英語のみを使用した授業、大学教授による講義など様々な活動が行われている。

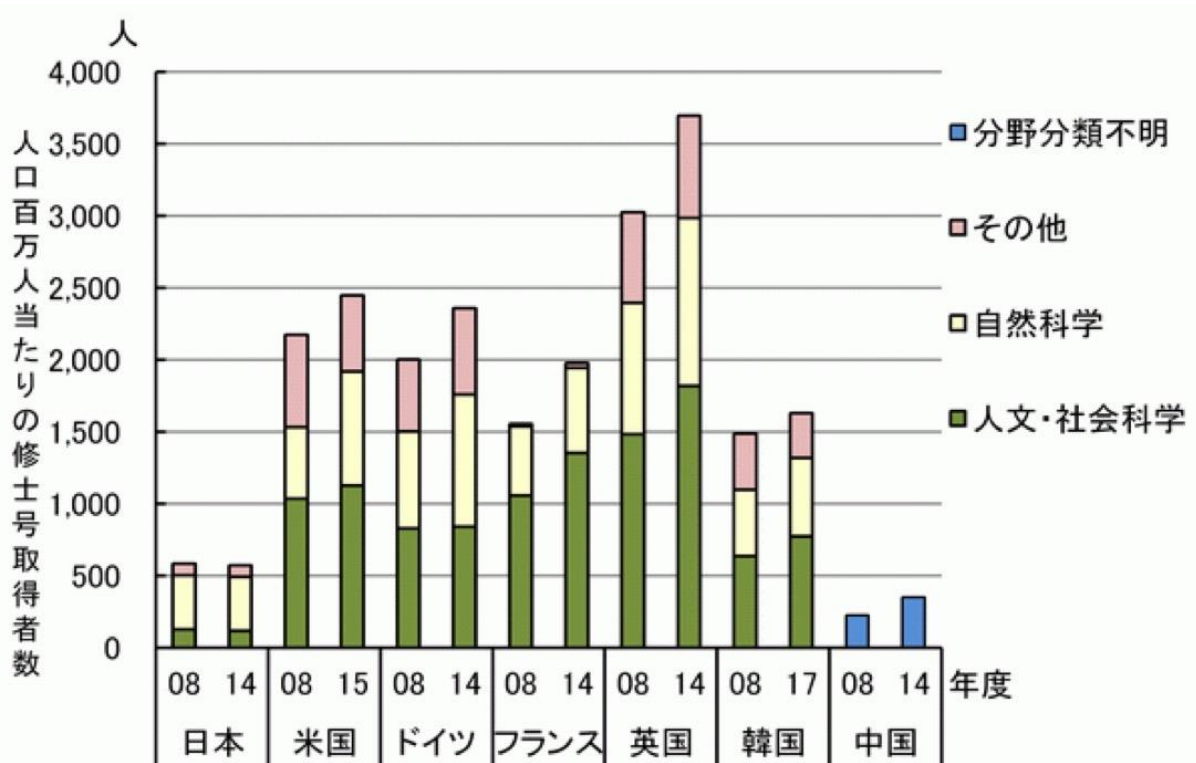
3-3 インターネットでの調査②

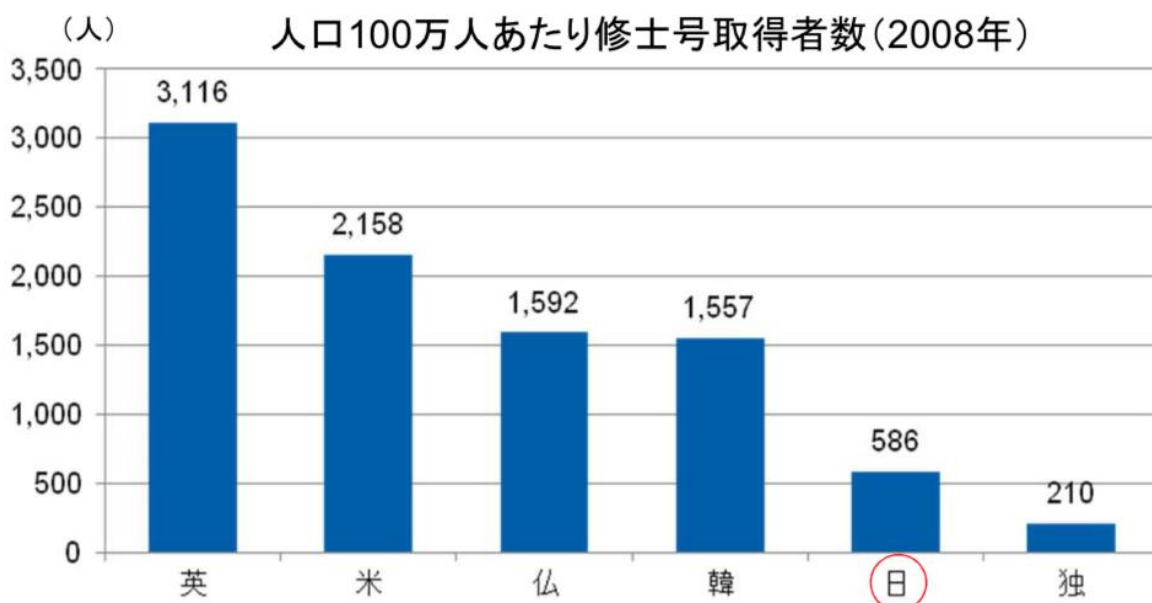
アメリカやイギリスなど欧米の先進国では文系理系の区別はあるものの、日本のように明確に分断していない国が多く、分野を超えた学びが可能である。入学試験において、日本は筆記試験を重要視するのに対して、海外では面接や高校での活動実績の調査が積極的に行われるという傾向が見られた。日本の大学の特徴としては学部学生の約 8 割が私立大学に在籍し、文系の学生が多い点が挙げられる。以下のグラフより大学卒業後に大学院へ進学し修士号や博士号を取得する割合は他国と比べて低いが、学部卒業者と大学院卒業者の就職後の賃金差が小さいことが一つの理由として挙げられる。

大学卒業者の主な進路状況（日本）



(注) 1 就職者割合の最高値は、昭和37年3月の86.6%。
 2 □で囲んだ年度は、最高値である。





(出典)文部科学省「教育指標の国際比較」より作成

4 結論

以上の調査結果より高校に文理融合学科を増やすことは、領域横断的な知識と発想力を学生に取得させることが可能である点において非常に有効であることが分かった。そこで二つの策を提案するという結論に至った。

4-1 文理融合型の高校の数を増やし、最終的に現在の文理分け制度を廃止する。

4-2 文理融合型の高校を増やす一方で一定数の専門的な学びが可能な高校を残す。

現代社会では幅広い知識を身につけた人材が必要であるが、一方で専門家を育成するために文系理系に分かれた学びができる環境を引き続き残すことも重要である。

5 今後の課題

大学での文系理系に分かれた学びや入試制度が高校の文理分け制度に影響することから、大学での学びを詳しく調査し、高校と大学の連携について考えたい。

6 謝辞

今回の研究をするにあたってお世話になった全ての方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

7 参考文献

- <https://www.asahi.com>
- <https://toyokeizai.net> 日本人の的外れなりベラルアート論
- <https://diamond.jp> 世界中で日本だけ理系と文系に分かれている理由
- <https://www.pref.kumamoto.jp> 令和5年4月。県立高校に新しい学科・コースが誕生します
- <https://xtech.nikkei.com>
- https://www.nistep.go.jp/sti_indicator/2019/RM283_35.html 科学技術・学術政策研究所